

平成29年度教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」実施報告

1 趣 旨 小学校5・6年生を対象に、初めて出会った仲間と約1週間かけて、公共施設や民宿等で寝食を共にしながらの淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間と協力することを学ぶとともに、人間としてのたくましさを育む。

2 期 日 平成29年8月20日（日）～27日（日） 7泊8日

3 募集定員 16名

4 参加者 20名

5 参加者内訳 小学5年生7名、6年生13名（男子11名、女子9名）
（南あわじ市3名、洲本市4名、淡路市3名、神戸市4名、尼崎市1名、西宮市1名、芦屋市1名、北海道1名、和歌山2名）



6 実施プログラム

日時		活動内容	宿泊場所	移動距離
8月20日（日） 天気：晴れ 最高気温： 33.8℃	9：00～10：00	受付（交流の家）、アンケート実施	南あわじ市 伊加利公民館	19km
	10：00～10：10	開会式、スタッフ紹介		
	10：10～10：30	決意表明発表・出発式		
	11：00～	出発		
	18：00	1班到着 ※2・3班は到着できず（残り1km）		
	18：45～20：45	入浴（ゆとりっく）・夕食		
	20：45～21：30	ふりかえり		
22：00	就寝			
8月21日（月） 天気：晴れ 最高気温： 34.0℃	4：00～ 5：00	起床・準備	洲本市立 都志小学校	24km
	5：00～	出発 ※2・3班は前日のゴール地点から出発		
	14：40～17：30	到着		
	18：00～20：30	夕食・入浴（ゆーゆーファイブ）		
	20：30～21：00	ふりかえり		
21：30	就寝			
8月22日（火） 天気：晴れ 最高気温： 34.7℃	4：00～ 5：00	起床・準備	北淡自然休養村 センター	29km
	5：00～	出発		
	17：00～18：00	到着		
	18：30～20：00	入浴・夕食		
	20：00～21：00	ふりかえり		
21：30	就寝			
8月23日（水） 天気：晴れ 最高気温： 35.0℃	4：00～ 5：00	起床・準備	津名高校 同窓会館	29km
	5：00～	出発		
	17：00～18：00	1・3班到着 ※2班は到着できず（残り10km）		
	19：00～21：00	入浴（パルシェ香りの湯）・夕食		
	21：30	就寝		

8月24日(木) 休息日 天気：晴れ 最高気温： 34.8℃	(2班) 5:30～ 6:00～10:30 10:26	起床 出発 ※2班のみチャレンジ 2班到着	津名高校 同窓会館	10km
	(1・3班) 6:30～ 7:00～ 8:30～11:00	起床 朝食 前半のふりかえり		0km
	11:30～11:45 12:00～15:00 15:30～19:00 19:00～20:30 20:30～ 21:30	昼食場所へ移動 昼食・夕食の買出し 夕食作り・夕食 入浴(パルシェ香りの湯) 全体ミーティング、荷物の整理 就寝		
8月25日(金) 天気：曇り 最高気温： 33.4℃	4:00～ 5:00 5:00～ 12:40～16:30 17:00～19:30 19:30～20:30 21:00	起床・準備 出発 到着、各班ふりかえり 入浴(エトワール生石)・夕食 全体ミーティング 就寝	洲本市立 由良公民館	
8月26日(土) 天気：雨のち曇り 最高気温： 29.6℃	4:00～ 5:00 5:00～ 15:00～17:50 18:00～19:00 21:00	起床・準備 出発 到着 夕食・入浴 就寝	国立淡路青少年 交流の家	31km
8月27日(日) 天気：晴れ 最高気温： 32.3℃	6:30 6:55 7:20～ 9:00 9:00～11:30 11:50～13:00 13:00～15:00	起床・準備 朝のつどい 朝食・退所準備 全体まとめ 昼食・休憩 報告発表会・閉会式		

※最高気温は、気象庁発表のデータを記載(8/20・8/26・8/27:兵庫県「南淡」、8/21～8/24:兵庫県「郡家」、8/25:兵庫県「洲本」)

- 7 プログラム内容 参加者の成長段階に応じた支援ができるよう、7泊8日のプログラムを下記のように大きく5つのステージに分けて運営した。

【第1ステージ：技術習得と目標設定・仲間作り】

8月20日（日）：国立淡路青少年交流の家→南あわじ市阿那賀地区（19 km）

8月21日（月）：南あわじ市阿那賀地区→洲本市都志地区（24 km）

保護者の前で「ジュニアチャレンジ淡路島一周」に対する決意表明を行い、チャレンジがスタートした。最初は緊張した表情でありながらも、和やかな雰囲気歩き始めた。地図の読み方やペースについては、事前説明会実施時に2km程度歩いた経験を活かしながら歩を進めていたが、1日目の山越えコースに暑さも加わり、どの班も苦戦している様子だった。その結果、うまくペースがつかめず、時間内に目的地に到着することができない班もあった。

日々のふりかえりでは決意表明で発表した目標を達成できたかを考えた。1日で約20kmを歩くことができた自分の頑張りを評価する子や、淡路島全体の白地図に歩いた道を記入して「全然進んでない・・・。」と悲観する子など様々であった。そして毎日、次の日の目標を再設定するとともに、翌日は何時に出発するかを班で話し合った。



【第2ステージ：信頼関係の構築とチーム作り】

8月22日（火）：洲本市都志地区→淡路市野島地区（29 km）

8月23日（水）：淡路市野島地区→淡路市志筑地区（29 km）

第2ステージからはボランティアスタッフの介入を減らし、子どもたち自身で地図の確認やペース配分を考えるよう促した。参加者は積極的に影を探して休んだり、休憩時に時間を測ってダラダラと休まないようにしたりと工夫が見られるようになった。読図にも自信を持てるようになってきて、長い距離を歩くためのスキルが体験的に身につけ始めていると感じた。

ふりかえりでも、上手く歩くためには、自分の体調と向き合いながら自分の気持ちを班員に伝えなければいけないと感じたり、班の一員として協力する事が必要だと感じ始めた子が増えてきたりと、自分が何をすべきかを考えることで、少しずつであるが各班の雰囲気がグループから一つのチームへと変わり始めた。



【第3ステージ：前半のふりかえりと目標の再設定】

8月24日（木）：ふりかえりと休息、交流プログラム

この日は、2班の残った距離を消化するチャレンジから始まった。すでに昨日ゴールをした1・3班は、前半の4日間で歩いた約100kmに対し感じたことを全体で発表し合った。その後、保護者から預かっていた手紙を参加者に渡し、家族からのエールを受けて、残り2日間の目標設定を再び行った。「どんなゴールにしたいか?」「そのためにどんな

ことを全員で頑張りたいか？」について、班の垣根を超えて1・3班と一緒に話し合った。その後、前日残した10kmを見事に歩き切った2班も合流し、午前中のふりかえりの内容を共有した。

午後からは交流プログラムとして、夕食作りを行った。各班は「全員のために1品作る」というルールのもと、食事メニューを班で相談しながら買出しと調理を行った。期間中は弁当ばかりだったこともあり、久しぶりの温かい食事にみんな喜んでいた。



【第4ステージ：ラストチャレンジ】

8月25日（金）：淡路市志筑地区→洲本市由良地区（22km）

8月26日（土）：洲本市由良地区→国立淡路青少年交流の家（31km）

ふりかえりで話し合ったように、お互いの体調にも気を配りながら進んでいる様子が見られ、どの班も自分たちのペースをつかむことができた。25日には、3班が道を間違えて遅れる場面もあったが、全員無事にこの日のゴールに着くことができた。最終日は、31kmと最長の距離で起伏の激しいコースではあったが、全ての班が無事に到達することができた。



【第5ステージ：全体のまとめとこれからの目標設定】

8月27日（日）：全体のまとめ、宣言文の作成と発表、閉会式

「チャレンジしたことや、がんばったこと」、「自分のことについて、気づいたこと」、「グループのことについて、気づいたこと」、「淡路島一周して感じたこと、学んだこと」、「これから家や学校に戻ってがんばっていききたいこと」についてまとめ、宣言文を作成し、保護者の前で発表した。

その後、完歩証明書を班付きボランティアスタッフから受け取り、映像班が1週間の様子をまとめたDVDを保護者と共に視聴した。



8 参加者の声

(最終日に書いた「私の宣言文」、アンケートより)

- ・しんどくても仲間がいると頑張れると感じた。
- ・コンビニや自動車のありがたみが分かった。
- ・友達と協力したり、先の事をきっちり考えるようにしたい。
- ・早寝早起きをこれからも頑張りたい。
- ・何か問題が起きてても、みんなで考えれば解決できるんだなと思った。
- ・地図で見てみると淡路島は小さいけど、やさしい人がいっぱいいたり、歩いた分だけ色々な事を発見することができた。
- ・自分の事は自分でできるよう頑張りたい。
- ・いつもは親をたよりにしていたという事に気づいた。
- ・これからは色々な事に挑戦していきたい。
- ・完歩できて達成感とうれしさにいっぱいでした。

9 IKR結果

「生きる力」の変容 (得点範囲: 28~168点)

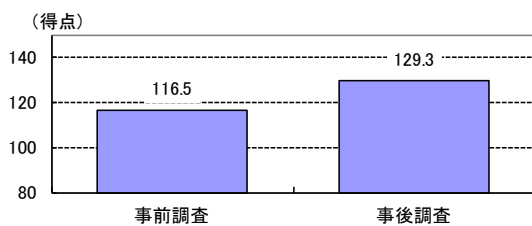


図1. 「生きる力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 12.8ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

事前調査	事後調査
116.5	129.3
12.9	

「心理的社会的能力」の変容 (得点範囲: 14~84点)

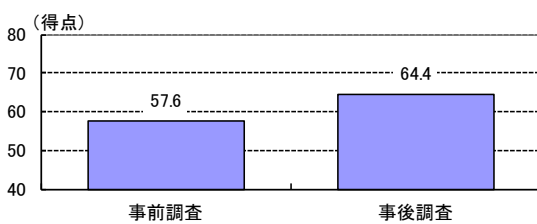


図2. 「心理的社会的能力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 6.7ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

事前調査	事後調査
57.6	64.4
6.7	

「徳育的能力」の変容 (得点範囲: 8~48点)

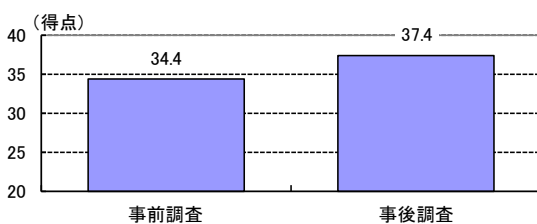


図3. 「徳育的能力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 3.0ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

事前調査	事後調査
34.4	37.4
3.1	

「身体的能力」の変容 (得点範囲: 6~36点)

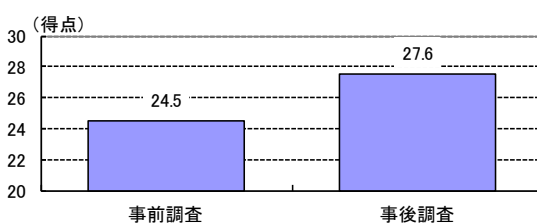


図4. 「身体的能力」の平均値の推移

(事前-事後)

- ・事前から事後にかけて 3.1ポイント向上
- ・その向上に有意差が見られた

事前調査	事後調査
24.5	27.6
3.1	

10 成 果

- ・日々のふりかえりや最終日に書いた「私の宣言文」の内容から、「仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。」という事業の目的は概ね達成できた。また、事業前後に実施したIKR（生きる力）調査のアンケートでも、全ての項目で有意な向上が見られた。特に「生きる力」の項目に最も有意な向上が見られた。
- ・歩いている際に地域の方々からあたたかい声援や差し入れをいただくことができ、事業開始から6年目を迎え、国立淡路青少年交流の家の事業として、広く認知されてきたように感じた。
- ・今回、第1回に参加した小学生が高校生になり、ボランティアスタッフとして事業に参加してくれた。高校生でありながらも一度淡路島を一周しているだけあり、子どもたちに上手く寄り添いながら歩いてくれた。参加者から、「この先大きくなったらボランティアスタッフとして参加したい。」と参加者から声上がるなど、次世代のリーダー育成に繋げることができた。
- ・株式会社大塚製薬工場の協力のもと、事前研修から「熱中症対策」の研修を行う事で、水分補給のポイントや対応等について考えることができた。さらに、経口補水液「OS-1」を提供していただいたことで、暑い中でも熱中症を未然に防ぎながら歩くことができた参加者がたくさんいて、とても助かった。
- ・一時期は10km以上離れてしまった班もあったが、協力して頑張れば目標を達成できるということを実感した途端に、班の雰囲気は非常に良くなってペースも格段に上がった。子どもたちの能力や可能性を引き出すために、失敗体験を活かしながら、成功体験を積み重ねていくことが重要であることを改めて感じさせられた。

